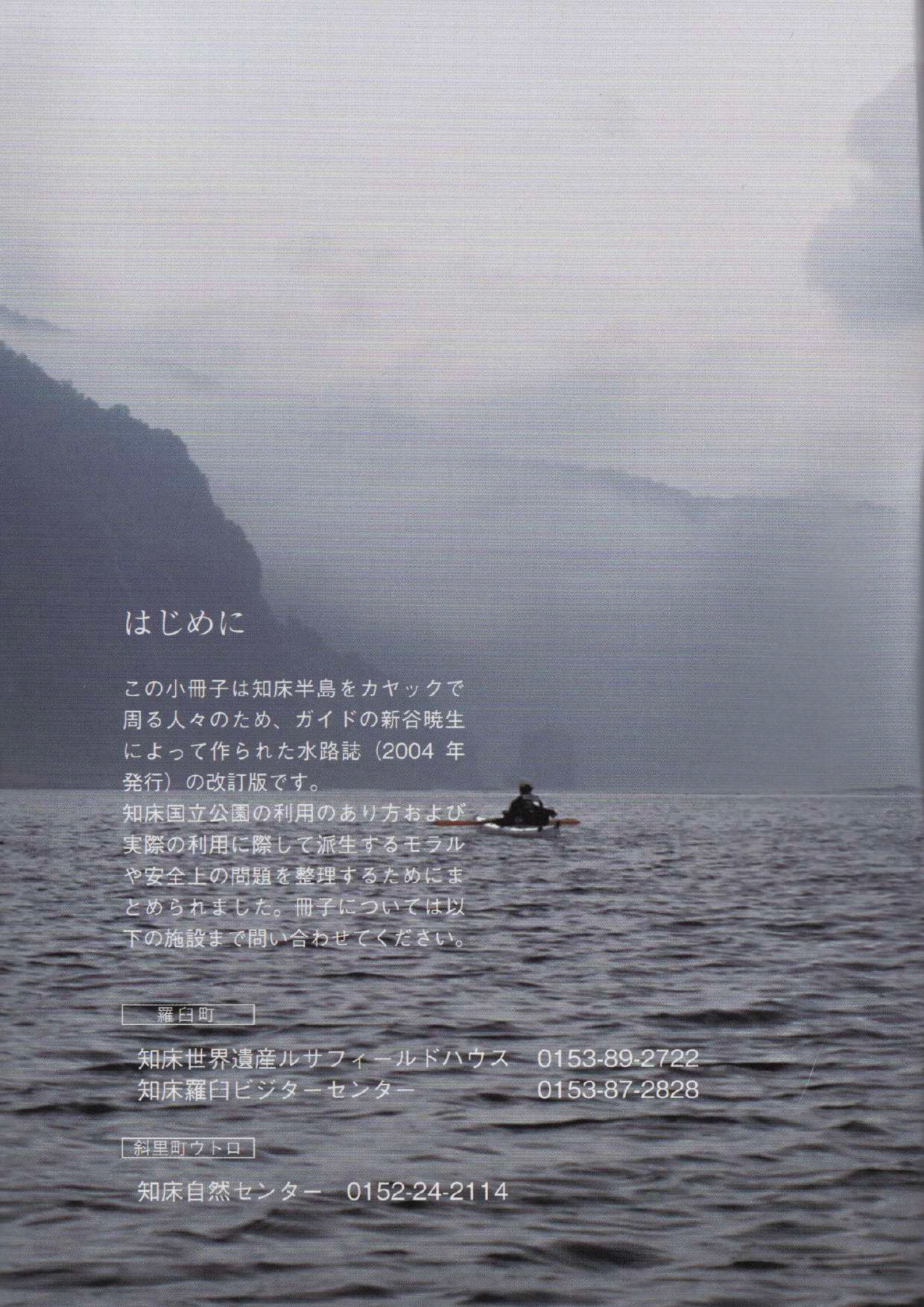
知床半島カヤック水路誌



はじめに

この小冊子は知床半島をカヤックで周る人々のため、ガイドの新谷暁生によって作られた水路誌（2004 年発行）の改訂版です。
知床国立公園の利用のあり方および実際の利用に際して派生するモラルや安全上の問題を整理するためにまとめられました。冊子については以下の施設まで問い合わせてください。

羅臼町

知床世界遺産ルサフィールドハウス　0153-89-2722
知床羅臼ビジターセンター　0153-87-2828

斜里町ウトロ

知床自然センター　0152-24-2114

知床半島先端部地区利用の心得を遵守し行動してください。

利用の心得

この冊子は、左記の施設で入手が可能です。
また、希望者へは知床半島先端部地区（以下、先端部地区）
利用について直接スタッフがレクチャーを行います。

知床半島先端部地区利用の心得 web サイト

SHIRECOCO シレココ

https://www.env.go.jp/park/shiretoko/guide/sirecoco/

先端部地区を利用する上での各アクティビティの詳細や
ヒグマ対策について情報を得ることができます。

出発の前に

出艇、上陸

北海道ではカヤックの漁港利用が条例により禁止されています。相泊漁港、ウトロ漁港の利用は緊急時を除き、原則避けてください。

出艇、上陸場所については1ページに記載の施設に問い合わせてください。

気象を把握しているか

知床半島は夏季でも厳しい気象特性となっています。出艇する前に、風向、風速予報、気圧配置などの気象情報を確認してください。

日程に余裕はあるか

半島の閉鎖的な環境にはエスケープルートがほぼありません。日程に十分な余裕を持って、計画を立ててください。

適切な衣類

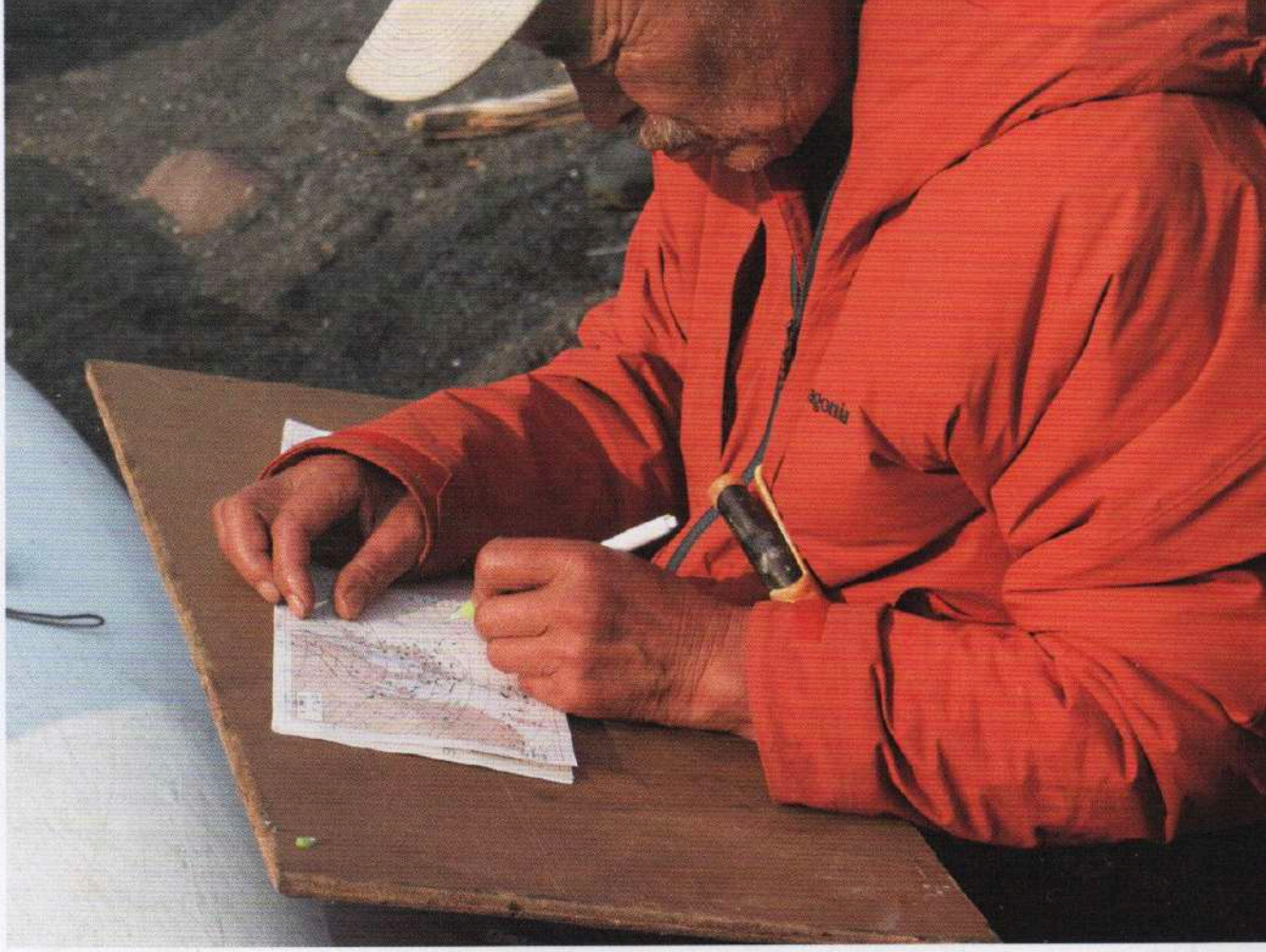
寒い海や冷たい雨に備え知床では防寒性を重視し、雨具は防水性能を優先してください。身体が濡れることによる体温の低下を防いでください。

非常食、水

悪天候で停滞することになった場合を考慮し、十分な量を持参してください。上陸した場所に水源が無い可能性もあります。飲料水は常に余裕を持ってください。

PFD、スプレースカート、予備パドル、艇の浮力

使用する道具をしっかりと点検してください。



携帯電話の電波は入らない。ラジオを利用して天気図をとる。

地図

GPS など電子機器を使用する場合でも、地形図は携行してください。

計画書

計画書を事前に海上保安署へ提出することをお勧めします。事故や遭難が発生した場合、地元に多大な迷惑がかかります。

ヒグマ対策

知床には多くのヒグマが生息しており、特に先端部地区には海岸で行動するヒグマがたくさんいます。9 ページには野営地でヒグマとの遭遇を防ぐ工夫や、遭遇した場合の対処法を記しています。

ヒグマ以外の野生動物

ヒグマの他に厄介な存在がキタキツネです。人の存在を恐れず、テントに侵入し食べ物や道具を盗むことがあります。一度味を占めた個体は、同じことを繰り返します。

知床で求められるもの

知床には多くの船がいます。羅臼側では早朝から 1t 未満船によって昆布漁が行われています。また羅臼、ウトロ共に定置網漁の船（17 ～ 19t）が常時作業をしています。また、大小の観光船がウトロの沿岸を遊覧しています。カヤックはこれら船舶に不安を与えたり、針路を妨害しないよう、常に「もっとも」陸寄りを進んでください。

カヤックからは見えていても、漁船から見えているとは限らない。

カヤック中に漁師から声をかけられたら返事をしてください。万一事故が起きたとき、あなたを助けるのは地元漁業者や遊漁船です。波間を漂うカヤックは地元の人々にとって迷惑な存在です。人々を不安がらせず、迷惑をかけない責任と自覚が、カヤッカーには強く求められています。

漁師の船が出入りする斜路や浜の利用にあたっては、必ず許可を得てください。
定置網、刺し網など漁業者の設置物に近づかないでください。必要な場合以外、斜路、番屋など漁業者の施設に近づかないでください。

漁網にカヤックを結んで釣りをしたり、漁網の中の魚をとらないでください。番屋や漁具の近くで野営することも避けてください。

断崖の陰から船舶が高速で現れることがあります。

カヤック航行の注意

カヤックは海のスポーツであり、海ではルール(シーマンシップ)を守らなければなりません。他者に不安を与えないこと、事故につながる恐れのある行為をしないことが常に求められています。五湖の断崖下やカムイワッカ付近では、落石に注意して崖近くの陸寄りを進んでください。船が近づいてきたら狭い範囲に集まって艇を止めてください。けっして長い行列で船舶の航路である沖を漕がないでください。小さな岬(でばり)の通過であっても通過後、必ず入り江の内側に舳先(へさき)を向けてください。これは出会い頭の衝突事故を防ぐためとともに、風の危険を避けるためでもあります。

強風の荒れた海を漕ぐことは危険です。岸近くを漕ぐことは知床では重要なことですが、それは危険な暗礁(隠れ岩・ブーマー)の間を進むことでもあります。

漁港は船舶が高速で出入りします。港を通過するときは縦に長くならず、まとまって速やかに進んでください。

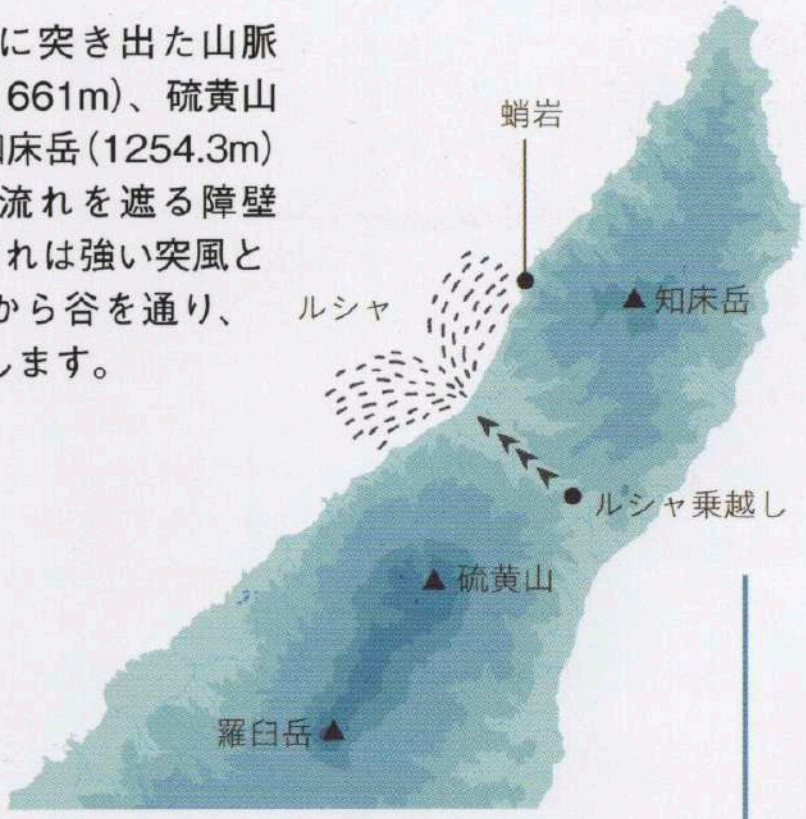
単独のカヤック

海を漕ぐことは自由であり、単独であっても本来、それは否定されるべきものではありません。しかし、一人でのカヤック行は、一人であるが故の危険が常にあります。単独行での事故は、万一の時、誰もそれを知ることは出来ません。知床国立公園でのカヤック航行の自由を守るためにも、安易な単独行は避けてください。

緊急時に協力してレスキューできるのはグループの利点のひとつ。

知床の気象特性

知床半島は海に突き出た山脈です。羅臼岳（1661m）、硫黄山（1562.3m）、知床岳（1254.3m）などが大気の流れを遮る障壁となり、時にそれは強い突風となって、鞍部から谷を通り、海に吹き降ろします。



南東の風がルシャ乗越しからルシャ川流域とその周辺に吹きだす風を「ルシャだし」と言います。「ルシャだし」が強い場合、影響は蛸岩やウブシノッタ川付近にまで及びます。水煙を巻き上げながら、旋風となって海上を走る風の中を漕ぐことは危険です。オホーツク海高気圧が張り出す時、知床は晴天下、海上を旋風が走る風の半島となります。危険な風はルシャの出し風だけではありません。気圧配置によっては、どこでも強い吹き下ろしの風が発生します。

南寄りの風が吹く時、羅臼の海は霧が出やすく日中は時化模様となります。
北寄りの風が続く時、ウトロ、羅臼側ともに長く時化が続きます。

大きな湾状の地形で最短コースである沖合を進むことは危険です。時間がかかっても必ず岸寄りを進んでください。

風や波が予見される場合はそれらが収まるのを待って行動する。上陸待機地点は事前に確認しておく。

潮汐によっては岩礁帯の水路を通過できない。沖に出ることを避けるため、カヤックを陸から運ぶのも一つの方法だ。

ヒグマの危険

ヒグマは、知床半島の海岸線のどこでも出現します。クマスプレーは必須です。カヤックで上陸したい場所にヒグマがいた場合、なるべく次の上陸場所へと漕ぎだしてください。なお、ヒグマは海を上手に泳ぐことができます。

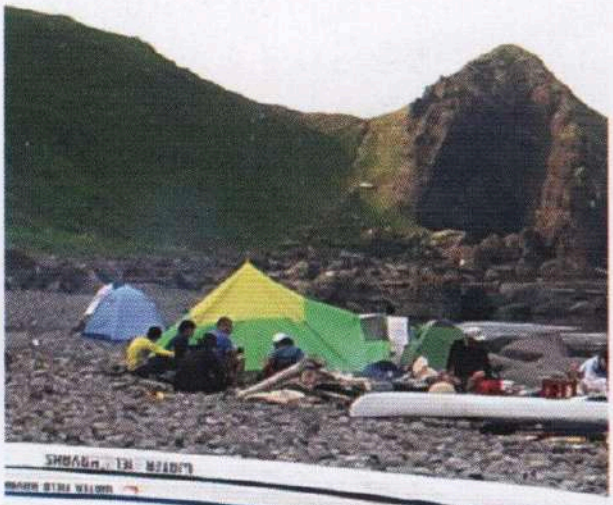
上陸後もヒグマがいるかもしれないと思い、手を叩いたり鈴や笛などがあれば音を出しこちらの存在をアピールしてください。

上陸後にヒグマと遭遇しても慌てないでください。クマスプレーを手に持ち、いつでもヒグマに向けて噴射できるよう準備し、3～5mまで接近されたら迷わず噴射してください。

サケ・マスの遡上時期（8～11月）には、ヒグマが魚を求めて河口に頻繁に出現します。川から十分に離れた場所で野営してください。

春から初夏にかけては、海を泳いで岩場の海鳥の巣を襲う個体に遭遇することもあります。

野営地でのヒグマ対応



テント・食事・調理の場所の距離を離すようにしてください（50m 以上が理想）。また、調理や食事で出たゴミはしっかり密封し、ニオイが漏れないようにして持ち帰りましょう。食料や残飯をヒグマに奪われたり、海岸に廃棄する行為は餌づけと同じです。けっしてやってはいけません。人間やテントにつきまとって攻撃する、極めて危険なヒグマを作り出してしまいます。

食料およびゴミの保管方法

○ 木に吊るす

高さ 4m 以上かつ
木登りしたヒグマから届かない位置にする。

○ フードコンテナを使用し、テントから離す。

フードコンテナを使用する時でもゴミや食料は完全に密封をしてニオイが漏れないようにした上で、コンテナ内に入れる。

食料や生ゴミは、クマ対策用の携帯フードコンテナ内に入れた上でテントから離して保管することがお薦めです。過去には、食料を持ち込んだ利用者のテントにヒグマが手を掛けた事例もあります。

ヒグマ関連情報については 1 ページに記載の施設の HP を参照するほか、同施設館内の掲示板や対面レクチャーで確認してください。帰還後の施設への情報提供もお願いします。

知床半島カヤック水路誌

半島ウトロ側

オホーツク海側

①ウトロ漁港

観光船、漁船の出入りが激しくカヤックで近づくことは危険。条例によりカヤックの漁港利用は禁止されている。

②ホロベツ川河口

定置漁業者が管理している。立ち入ってはならない。

③イワウベツ川まで

景勝地が連続する。観光船の針路を妨害してはならない。

④イワウベツ川

サケマス孵化場がある。冬は石浜だが夏は砂地の浜となる。急に水深を増し破壊力の大きな波がたちやすいので、上陸に注意。離発着、キャンプをしてはならない。

⑤五湖の断崖

断崖の景勝地が連続する。海鳥のコロニーを刺激してはならない。崖の崩壊、落石に注意。船舶に注意。不要な上陸は避ける。

⑥マムシの浜（通称）

五湖の断崖のはずれ、イダシュベツ川の隣にある二方を崖で囲まれた石浜。ヒグマがいる可能性は小さく、キャンプ地として適している。水場はウトロ寄りの崖下にある。水場を含め崖付近は落石の恐れがあるため注意。崖下の日当たりの良い藪地にマムシがいることがある。海況が悪い場合、他と比較して緊急上陸が可能。上陸点は岬寄り。

⑦イダシュベツ川

ヒグマが頻繁に出没する。海況が悪いとき、地形的に不用意な上陸は危険。キャンプ地の選定に注意。

⑧イロイロ川（通称）

イダシュベツ川とカムイワッカ川の間にある。飲用可能だが煮沸か浄水が必要。キャンプの適地ではあるが、ヒグマが出没しやすい。

⑨カムイワッカの滝

海岸に大きな滝が落ちている。硫黄を含んだ水のために飲用不適。海は硫黄のためエメラルドグリーンになる。観光船が頻繁に出入りしている。カヤックは岸寄りを進むこと。滝前に戦時中の飯場、桟橋跡の木柱が残っている。上陸やキャンプをすべきではない。

湾の最も岬寄りの浜は、強い北風の時に避難場所として上陸が可能だが水はない。

⑩硫黄川

湾奥のため上陸には適する。水は硫黄分が強く、飲用できない。

⑪ウブシノッタ川

この付近は開けた急傾斜の石浜が続き、海況の悪いとき上陸は困難。ウブシノッタ川から先、タキノ川まで立ち入りは禁止されている。

⑫ポンプタ川からポンベツ川

知床林道が海岸に下りた地点。岩礁が発達して波が減衰する地点があり、海況悪化の時、緊急上陸に適する。「ルシャだし」が強い時の、一時的上陸の適地。ヒグマの出没は頻繁。

⑬ルシャ及びテッパンベツ川

だし風が強い時は特に岸寄りを進むこと。海況が悪い時、磯波の大きな時は非常に危険。カヤックはけっして沖に出てはならない。ルシャ地域に不用意に上陸またはキャンプすべきではない。

⑭19号番屋、滝ノ下番屋

19号番屋はテッパンベツ川の岬寄り、滝ノ下番屋はタキノ川河口にある定置番屋。この付近の通過に際し漁業者に迷惑をかけてはならない。定置網を不用意に通過しないように注意。

⑮蛸岩

岩の陰は入り江となり上陸に適する。ヒグマの出没が頻繁。沢から離れキャンプすること。この付近のクマは親子連れが多い。若いクマを刺激しないこと。カモメの卵を採るために崖から落ちるヒグマがいる。岬方面から周回した場合、ルシャ出しのときの風待ちに適している。

⑯カシュニの滝

水中に直接落ちる滝。水量が少なければ滝下をくぐることができる。水が多い時は危険。滝の水が強風で飛ぶ時、秒速15m以上の風が吹いている。このような時、無理に艇を進めてはならない。滝から約500m岬寄りに上陸適地と洞窟がある。落石に注意。

⑰カパルワタラ

上陸に適しており、内側の水路はカヤックで通過できる。

⑱知床川からポトピラベツ川

崖上からの落石に注意。知床の原始的景観が際立つ。上陸地はある。

⑲オキッチウシ川、観音岩

レタラワタラ。オキッチウシ川から観音岩まで、海況が悪い時は特に岸寄りの水路を進むこと。沖にせりだした岩礁は高い波が突発し危険。暗礁に注意。オキッチウシ川付近の水路、潮は速い。河口付近はヒグマが頻繁に出没する。キャンプ地の選定に注意。

⑳海賊湾（通称）

イタシュベワタラの岬寄り、アウンモイ川の湾の先、岩礁帯の続く岬に深い入り江がある。岸寄りを漕がないと気付かない。沢が流れ込んでいる。平地がなくキャンプ地には適さない。

㉑落合湾（通称）

海賊湾の先、ポロモイに続く岬の端にある上陸適地。浜に湧き水がある。ウトロ寄りの岸裏に水が噴出しており飲用可。

海賊湾、落合湾ともに通称。地図にはない。落合湾の入り口は隠れ岩が多い。波の高い時は岬寄りから針路を取り湾に入ること。三方を低い崖に囲まれた水のない入り江のため、ヒグマの出没頻度は低く、キャンプ地に適している。崖上は岬に近くなるため標高が低くなり、平坦な森に獣道が走っている。

㉒ポロモイ

夏の南風が知床岳に遮られ、穏やかなことが多い。定置漁の船の邪魔にならぬよう航路の選択に注意。海岸は上陸可。ただし単独のヒグマが出やすい。

㉓獅子岩

知床岬近くの岩礁帯。内側の水路を通ることができる。暗礁に注意。上陸可。

㉔文吉湾避難港

定置の番屋がある。緊急時以外の上陸は避けるべき。港口の通過にあたり、獅子岩から岸沿いを進み、内側の水路から固まって通過する。船舶の出入りに注意。潮が速く、動力船は全速で出入りする。港口沖に巨大な防波（氷）堤がある。海況が悪い時、外側の通過は危険。

㉕知床岬

アブラコ湾をかわすと羅臼側の強風域に入る。陸からの強風時には沖に出ぬように注意。獅子岩から赤岩まで、岬付近の上陸は緊急時を除きしてはならない。知床岬付近は風が強く潮が速いため、沖を漕ぐことは危険。岬付近一帯では、隠れ岩の波が非常に危険。赤岩の入り口まで岸寄りに水路を探す。風が弱まってから通過する。

半島羅臼側

根室海峡・太平洋側

㉖赤岩

赤岩海岸は以前昆布番屋が立ち並んでいた大きな湾。岬をかわして赤岩海岸に達したら湾の内側に入ること。岸近くは浅瀬が続く。岬寄り、出口水路付近の暗礁に注意。沖はカブト岩方向から吹く風のために大きな波が立つことがある。上陸適地は岬寄りに多い。この付近には大型のヒグマが出ることがある。

㉗カブト岩

赤岩の岩礁は岸寄りに水路がある。カブト岩の通過は強風時には困難。羅臼方向から強い風とともに高い波が立つことがある。日の出とともに風は強まり、日没後、風は弱まる。念仏岩までは岸寄りの暗礁帯の中を進む。

㉘念仏岩から男滝、女滝

この付近は二本滝、滝ノ下と呼ばれ、上陸に適している。キツネが多く食料や装備などを放置してはならない。艇は裏向けておくこと。キツネの小便は非常に臭い。キャンプ適地は岬寄り。

㉙滝ノ下からペキンノ鼻

小さな岬（でばり）と暗礁帯が続く。ペキンノ鼻は強い風と波が起こりやすく、沖を漕ぐことは危険。岸沿いに暗礁を避けて進み、岬の通過後は速やかに入り江に入る。ペキンノ鼻には鳥居が立つ。岬の羅臼側に観音像が祭られている。

㉚ペキンノ鼻から船泊（通称カヤック爺さん）

切り立つ崖と森林、霧がかかる幻想的な海岸。崖上に海鳥のコロニー。内側の水路は美しい。キャンプ適地は通称カヤック爺さんの浜。水はない。この一帯は南風から守られている。水路の外側にカヤックを漕ぐ年寄りに似た岩礁が広がる。メガネ岩側の入り江に続く岬は風の影響を受けやすい。小岬の内側に狭い水路がある。

㉛モイレウシ川

通称モイルス。メガネ岩の入り江から岬をかわすとモイルスの深い湾が広がる。湾の奥にモイレウシ川が流れ込み、定置の番屋がある。湾の通過では入り江奥からの突風に注意。西風が強い時は危険。湾の羅臼側にタケノコ岩がある。緊急避難、キャンプ地に適する。番屋に断ること。

㉜タケノコ岩からウナキベツ川、化石浜

陸寄りは暗礁帯が続き、南風の影響で波立つことが多い。西の強風が知床岳から吹き降ろす時、化石浜の前浜は強い風波が立ち危険。羅臼寄りの漁協施設跡横にキャンプ適地がある。ウナキベツ川付近は使用されている番屋がありキャンプには不適。

㉝観音岩

強風時の通過は危険。岸寄りに水路があるが一度外側に出て岬をかわさねばならない。南風が強い時、観音岩の通過は風と高波で困難。

㉞崩浜

キャンプ適地が観音岩側にあり、開けた平らな石浜と小さな水場がある。現在の昆布番屋については、観音岩からカモイウンベ川左岸まで使用されておらず、カモイウンベ川右岸から相泊区間のみである。番屋が無人であっても昆布干し場でキャンプしてはならない。相泊側から出発の場合、この付近で観音岩付近の状況を見極めること。追い波、追い風は向かい風以上に危険な場合がある。追い波は見えず、艇尾をとられやすい。また危険を認識するのが遅れる。

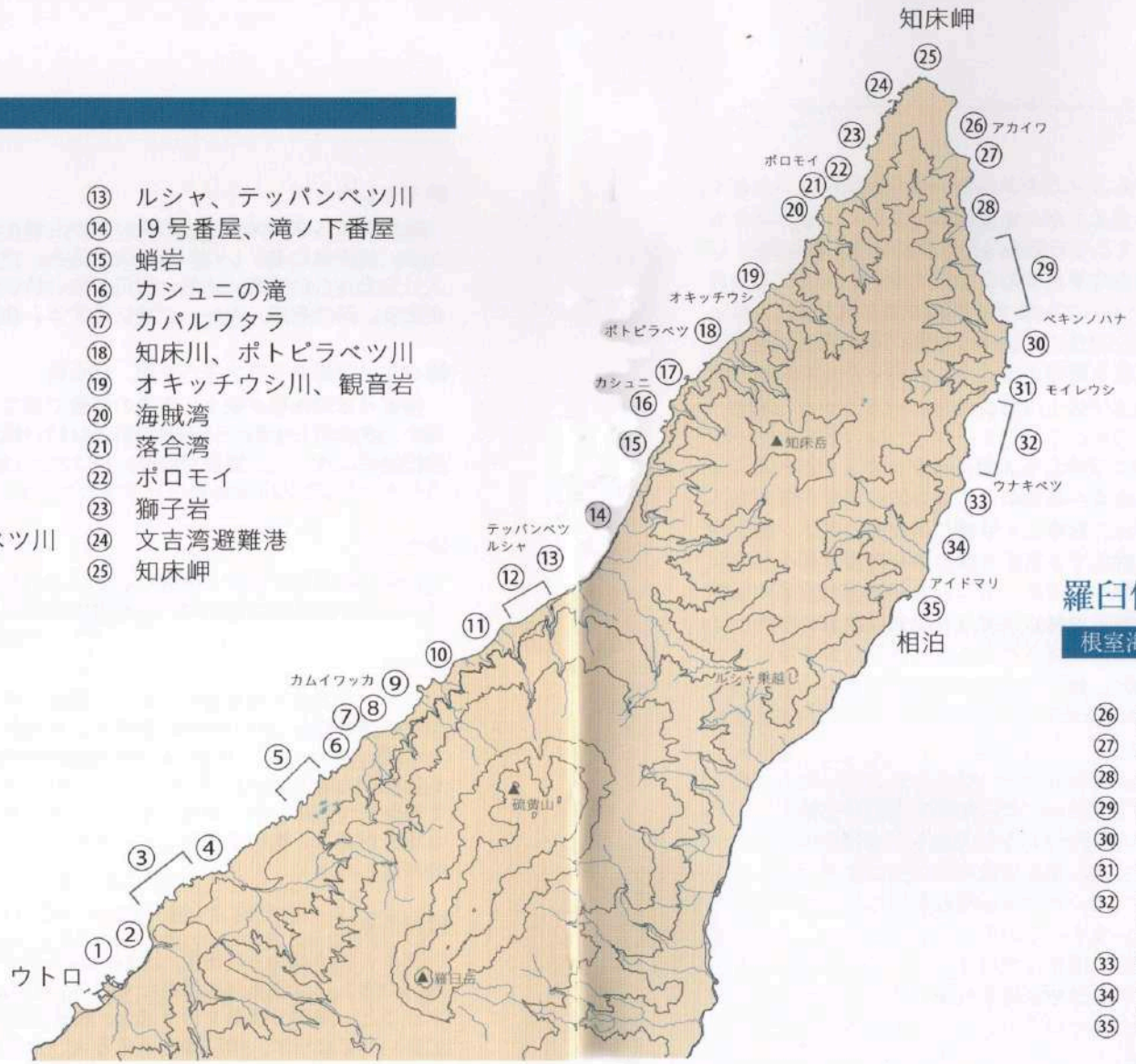
㉟相泊漁港

アイドマリ川からの出艇、上陸は可能。ただし車の駐車について注意が必要。港への出入りは緊急時以外避けること。港の入り口では船舶の出入りに注意すること。港口の横断を行う場合、船舶の出入りなど安全を確かめ、けっして長い列にならず、横に舳先をそろえ、かたまって横断すること。

ウトロ側

オホーツク海側

① ウトロ漁港
② ホロベツ川河口
③ イワウベツ川まで
④ イワウベツ川
⑤ 五湖の断崖
⑥ マムシの浜
⑦ イダシュベツ川
⑧ イロイロ川
⑨ カムイワッカの滝
⑩ 硫黄川
⑪ ウブシノッタ川
⑫ ポンプタ川からポンベツ川
⑬ ルシャ、テッパンベツ川
⑭ 19号番屋、滝ノ下番屋
⑮ 蛸岩
⑯ カシュニの滝
⑰ カバルワタラ
⑱ 知床川、ポトピラベツ川
⑲ オキッチウシ川、観音岩
⑳ 海賊湾
㉑ 落合湾
㉒ ポロモイ
㉓ 獅子岩
㉔ 文吉湾避難港
㉕ 知床岬



羅臼側

根室海峡・太平洋側

㉖ 赤岩
㉗ カブト岩
㉘ 念仏岩から男滝、女滝
㉙ 滝ノ下からペキンノ鼻
㉚ ペキンノ鼻から船泊
㉛ モイレウシ川
㉜ タケノコ岩から
ウナキベツ川、化石浜
㉝ 観音岩
㉞ 崩浜
㉟ 相泊漁港

5万分の1、または2万5千分の1地形図を必ず参考にしてください。

終わりに

この水路誌は知床の海を解説することでカヤッカーの安全に役立つことを願って作られたものです。これはガイドブックではありません。日々刻々と変化する海で、これをガイドブックとして使うことは危険です。あれから 17 年たちました。その間幸いにも大きな事故は起きていません。しかし私を含めて危険な目に遭う人は毎年のように出ています。判断を誤り運が悪ければ、ここではすぐに致命的な事故につながります。海況の変化を注意深く観察すること、常に地図や海図で現在位置を確認すること、余裕を持って柔軟に行動することが知床では重要です。

20 年前、アウトドアブームの中で知床にも大勢のカヤッカーが訪れるようになりました。しかしその多くはあまり経験がなく、冒険心だけが旺盛な人たちでした。相泊近くで波をくらって転覆し、漁師に助けられた人、定置網のロープに舳がからまって沈し、大波で上下する網にぶらさがり懸垂しながら命からがら岸に泳ぎ着いた人、岬の沖で羅臼側に回り込めず、南東の強風の中、国後島まで流されロシア国境警備隊に保護された人、故意に中間ラインを越えてロシア側に入り巡視船に連れ戻された人、ルシャの沖で風に流され、携帯電話で保安庁に救助を求めて 19 号番屋の大瀬さんに助けられた人もいました。私も 2 度、ルシャと念仏岩で事故をおこしかけ、結果的に地元のみなさんに迷惑をかけました。

アウトドアは現代のブームに過ぎません。そんな中で自己を主張したところで所詮レジャーの域を越えません。そのような人たちが当時計画したのが羅臼から国後へのカヤックツアーです。知床は漁業者の生活の場です。漁師はカヤッカーをいつも心配し見守ってくれます。そんな彼らはいつも拿捕の危険に怯え、国境の海で漁をしています。そのような状況でカヤックだけが自由に振る舞えるわけがありません。国後計画は立ち消えになりましたが、その後もここに修学旅行のカヤック体験の企画を役場に持ち込んだ人がいたと聞きました。知床は穏やかな湖や川ではなく、時に牙をむく海です。大規模な体験ツアーには向いていません。

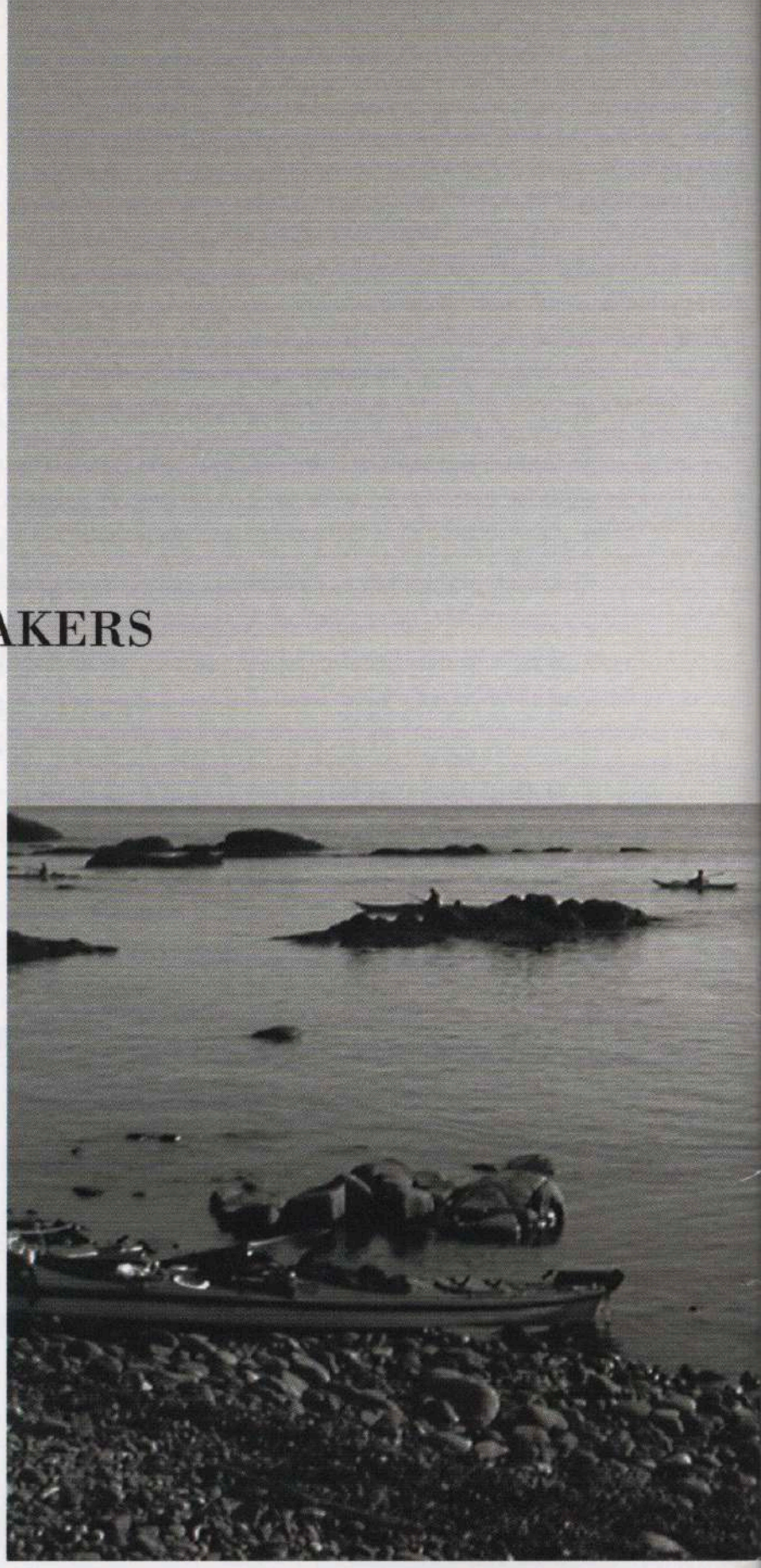
知床はリアルな冒険のフィールドです。それはアリューシャンやアラスカ、南米パタゴニアなど世界の辺境の海に匹敵するものです。トラブルは全て自分で解決せねばならず、誰も助けてくれません。シーカヤックは時に命を奪われるスポーツです。海は公平であり、経験の有無を問わず危険も喜びも公平に私たちに与えてくれます。現代のカヤッカーは生きるために数千年にわたって海を漕ぎ続けた無数の海洋先住民の末裔なのです。

近年、カヤッカーの増加に伴い上陸や出艇場所、あるいは駐車に際してのトラブルが多く起こっています。その原因の多くはカヤッカーの側にあります。しかし、もし地元の人たちが広い心で何も知らないカヤッカーに接してくれたら、カヤッカーもいつの日か知床の人々とその自然に敬意を払い、節度を持って地元の人々と接する日が来るのではないでしょうか。そのためにも無知から来る過ちや迷惑を遠慮せずに指摘していただけたらと思います。排他性や閉鎖性は、サーフィンの世界がそうであるように地元にもサーフィンの文化にも結局は良い結果を生みません。またカヤッカーも正しくシーマンシップを具現化すべきです。海には様々な人が生きています。他者への配慮がカヤック航行の自由を保障します。私が言うと鬼が笑いますが、日本のカヤッカーはそのことを理解すべきです。

昔アイヌの人々は半島羅臼と国後島古釜布の間を自由に行き来していました。国や国境がなかった時代、人々は意志さえあればどこへでも行けました。どこへでも自由に行けるということは有難いことです。自由は尊いものです。私はこの海を漕ぎ続けられることに感謝しています。水路誌再刊に取り組んでくれた羅臼町はじめ知床財団の皆さんに敬意を表します。

ガイド　新谷 暁生

COAST PILOT
FOR
SHIRETOKO KAYAKERS



発行日　2022年2月
企　画　公益財団法人 知床財団
著　者　新谷 暁生
発　行　羅臼町